

■ **田健治郎** 官僚，政治家。通信・鉄道分野を歩んで出世，武官制から文官制へ変わる最初の台湾総督になった。
でんけんじろう
安政大地震・1855 = 丹波国氷上郡下小倉村字大部谷(兵庫県氷上郡柏原町)で，代々豪農として名望家で大庄屋をつとめたこともある家の次男に生まれる。

桜田門外変・1860 = 5歳：

禁門の変・・1864 = **9歳**：丹波国篠山藩の儒者渡辺弗措の塾生となり，
のち，丹波国柏原藩の小島省斎に学ぶ。

明治維新・・1868 = 13歳：

明治6年政変 1873 = **18歳**：
佐賀の乱・・1874 = 19歳： 東上し，熊谷県に出仕，官界に入る。
初の民間工場1875 = 20歳： 愛知にうつり，
以後，高知・神奈川・埼玉など，各県の警察部長などを歴任。

明治14年政変1881 = 26歳：
新体詩抄・・1882 = **27歳**：

帝国憲法発布1889 = 34歳：
帝国議会始・1890 = 35歳： *後藤象二郎に認められて，後藤通相のもとで通信書記官となり，
大津事件・・1891 = **36歳**：

日清戦争始・1894 = 39歳： 官房文書課長・同記録課長・通信大臣秘書官・郵務局長・通信局長・電務局長などを経て，
白馬会・・・1896 = 41歳： ハンガリーで開催された万国電信会議に委員として参加，
子規句歌革新1898 = 43歳： 通信次官兼鉄道局長となったが，まもなく辞任して実業界に入り，関西鉄道社長となる。

ピアノ国産化・1900 = **45歳**： 官界に復帰して，通信省総務長官となったが，
田中正造直訴1901 = 46歳： 辞任し，伊藤博文の後援で兵庫県第三区の補欠選挙で衆議院議員に当選(当選2回)。立憲政友会に所属したが，予算問題で第一次桂内閣との妥協を策し，党内の強硬派と対立し，政友会を除名された。
教科書疑獄・1902 = 47歳： 復党したが，
日比谷公園・1903 = 48歳： 伊藤の政友会総裁辞任で離党。再び通信省総務長官(通信次官)をつとめ，日露戦争下の通信業務に尽力。
日露戦争終・1905 = 50歳：
満鉄発足・・1906 = 51歳： *退官と同時に貴族院議員に勅選，
韓国反日暴動1907 = 52歳： 男爵。衆議院議員に当選，九州炭鉱などの社長もつとめ，

伊藤博文暗殺1909 = **54歳**： 貴族院では男爵議員を中心に官僚派勢力を糾合し，元老山県有朋と次第に接触を深める。

明治天皇没・1912 = 57歳：

第一次大戦始1914 = 59歳： <シーメンス事件>がおこると，貴族院の茶話会の中心となって第一次山本内閣の海軍拡張予算削減をはかり，内閣退陣に追い込んだ。次の第二次大隈内閣にも反対の立場に立ち，寺内正毅の擁立を策し，
民本主義・・1916 = 61歳： 寺内内閣の成立とともに通信大臣として入閣，通信事業の拡大を推進。
ロシア革命・1917 = 62歳： 総選挙では政府側の選挙委員長として立憲政友会の勢力拡張を助けた。
本格政党内閣1918 = **63歳**： 寺内内閣退陣によって辞任。
ハルビン条約・1919 = 64歳： *南洋協会会頭。台湾総督となり，従来の武官総督制から文官総督制へ変化，
5年間台湾にとどまり，地方自治制の実施，民法・商法の施行，評議員会(官選諮問機関)の設置などにあた
る一方，しばしば経済政策・物価調節・普通選挙・社会政策などの問題について，山県に意見を具申した。
この間，皇太子の来台の際，サボテンについて名を尋ねられ，“月下美人”の名付け親になった。

原敬首相暗殺1921 = 66歳：
水平社結成・1922 = 67歳： 高橋内閣時代，西園寺公望らにより，入閣して政友会の次の総裁に推そうとする動きがあったが，固辞。
関東大震災・1923 = 68歳： *台湾総督を退任。第二次山本内閣の農商務大臣(はじめ司法大臣兼任)となり，関東大震災直後の被災者救済に努力したが，「保険会社2対スル貸付金2関スル法律案」などが政友会の反対で流産したため辞職。
治安維持法・1925 = 70歳： 電気協会会長をつとめた。
円本時代始・1926 = 71歳： 枢密顧問官となる。
金融恐慌・・1927 = **72歳**：
海軍軍縮条約1930 = 75歳： 脳出血から肺炎を併発し，東京府下玉川村上野毛の自宅(万象閣)で，没した。
参院議員の田英夫は孫。